

RIMS 共同研究「離散力学系の分子細胞生物学への応用数理」

講義ノート (2) 「生物学的時間とスケール変換」

2009 年 1 月 6 日午後分

講演者

石川冬木先生 (京都大学大学院生命科学研究科)

タイトル「生物学的時間とスケール変換」

巖佐庸先生 (九州大学大学院理学部生物学科)

タイトル「進化としての発癌プロセス」

辻本諭先生 (京都大学大学院情報学研究科)

タイトル「離散可積分系とスケール変換

～連続・離散・超離散～」

講義ノート作成者

豊島有 (東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻)

鈴木健太 (東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系)

浦久保秀俊 (東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻)

Chair:小林

午後のセッションのタイトルは、形に対して時間ということで、タイトルは「生物学的時間とスケール変換」です。多くの方々はなぜこのようなタイトルなのか疑問に思われていると思いますが、実は、私もなぜこのタイトルなのか良く分かりません。

午前中のセッションでは具体的な問題を絞りこんでいましたが、このセッションは話題提供的なセッションになると思います。生命現象において扱いきれていない話題、特に時間に関する問題について扱います。夜のセッションで、スケール変換の話題とかみ合うか試したいと思います。

このセッションは3人話者がおられます。一番目には生物サイドとして石川先生、二番目には生物と数学の間を繋ぐ数理生物の巖佐先生、3番目に数学サイドとして辻本先生にお話いただこうと思います。それでは、石川先生、お願いします。